

戦争で白衣染めぬ 大阪で医師・看護師

戦争法案の強行採決が迫るなか、医師、歯科医師、看護師らが10日、「二度と戦争で、白衣を血で染めさせない」と「白衣の街頭宣伝」を大阪市中央区で行いました。

大阪府の保険医協会と歯科保険医協会の呼びかけに約70人が参加しました。



戦争法案反対を訴える医師、看護師ら＝10日、大阪市中央区

開会あいさつした府保険医協会副理事長の安藤元博さんは「来週にも戦争法案は強行されるようとしています。命を守る医師と戦争は真っ向から反するもの。この法案に断固反対します」と訴えました。

府保険医協会の高本英司理事長、府歯科保険医協会の玉川和隆名譽理事長らも街頭に立ちました。

医師、弁護士らが次々とマイクを持ちました。府立病院機構労働組合委員長の山本桃代さんは「安倍総理は社会保障のためといながら消費税を上げました。しかし現場は改善されていません。戦争に使うよりも社会保障を充実させるべきです」と訴えました。

両協会は7月8日に戦争法案反対のアピールを発表しており、賛同者が800人（10日現在）になったことを紹介しました。